

早いもので住み良い街、田無に越してきてから二十年を経過し、すっかり気分も地元の人として定着してきた様な気がします。年齢も古希を過ぎ、健康に留意しつつ、常に感謝の念を忘れず、日々好奇心を旺盛にしてボケないように楽しんでいます。甚だ僣越ですが、その生活の一端として、辞典・辞

書類では中央を、一般図書では芝久保図書館を毎日利用させていただき大変有難く思っております。つい最近まで自営でコンサルタント会社を経営し、情報源は最大の関心で夫々のソースから調査・翻訳・解析加工して動向調査、それに伴う進路

方向、将来予測等を業務内容としておりました。そんな習性からか、いまでも一部抜けきらずに図書館を大いに活用させていただいております。戦後からよみがえった現在では、社会情勢の大きな変化、社会通念、公序良俗の変貌、日本人としての自覚の喪失、リーガルマインド意識の低下等、たしかに日本はどこか変になってきております。



変化のテンポが早く、IT化が進み、活字文化の低迷が心配なだけでなく、既に電子化が進んでおり、関連する企業の衰退も憂慮されておりです。先日、エルコノン・ゴールドバーグ著、藤井留美訳（NHK出版）『老いて賢くなる脳』を読みました。脳を鍛えあげれば、脳細胞も修正され、活性化され、精神に磨きをかけることができ、

弱くなった部分を鍛えるだけでも記憶力が向上し、広い視野、分野での判断力が得られるようです。何事も本人次第ですが、流されることなく、特別気負う必要はありませんが、くさらず、あせらず、明るく前向きに、小さなことでも実行可能なこと

をやって行こうと思います。ただ、年寄り、老人、爺と呼ばれても、気持ちは若く、気力も旺盛な、タフな人間として活きるためにも、図書館を大いに活用し、脳を活性化させたいものです。少しでも市民の生活が明るく、楽しい、住み心地の良い街になるように、小さなオピニオンを図書館から発信させたいものです。

大人のための連続講座「元禄の江戸と赤穂事件」の講師に原稿をお寄せいただきました。

### 歴史資料を見つける

吉田 豊

定年後に思い立って、地方史の勉強を始めました。中央図書館の地域行政資料室には、田無村名主であった田家文書複写があつて自由に閲覧できます。また関東各地の県史・市史や、村々の名主家に伝来する古文書等が、活字化されて配列されていますから、各地方史に関する調査研究の手がかりは、中央図書館において得ることが出来ます。私はこの手法で調べた後、現地に出かけて古文書の現物を見ることにしています。

もう一つ、地域行政資料室にある内容豊富な歴史資料を紹介します。それは『東京市史稿』で、明治期に東京市が江戸東京の歴史編纂事業を開始し、明治四十四年第一巻刊行以来、今や百六十巻にも達し、東京都公文書館によつて引き続き刊行されている、江戸東京の歴史資料集です。まさに世紀をまたぐ大事業が生き続けていることに感動を覚えます。

この本の構成は、編年体で歴史事象を簡潔に掲げ、関連史料を附属の形で豊富に載せています。例えば元禄十四年三月十四日、松の廊下刃傷事件は、本文が六行しかなくて、附属

の関連史料は幕府の公式日記ほかが一十一ページも記載され、翌年暮れの義士討ち入りの記事は、本文五行に對し附属史料は百四十三ページに達しています。これらの附属史料は、すべてが史実に即した一級史料とは言えませんが、私たち研究者にとつては有り難い遺産となっております。

ただ、明治期に刊行されたものは、江戸かな(変体かな)の活字で組まれているため、残念ながら敬遠されていくようです。戦後の刊行分は現代かなで組まれていますから、こちらだけでもご利用なさるようおすすめする次第です。私はたいへん重宝しています。

### 編集後記

「西東京市のことは、西東京市で！」これは、地域行政資料サービスの原点です。地域情報センターに向けての取り組みは、図書館全体でも行われており、今ある事業を充実・発展させ、利用者の求めに応じたより良い機能の創造に努力しています。

なお、「図書館だより」のバックナンバーでは、ほかの事業を紹介しています。そこにこめられた各事業担当の熱いメッセージに触れていただけたら幸いです。

